

桐原 純男議員



白水地区に新たな観光拠点整備を

桐原議員

久木野地区は、あそ望の郷の拡張計画・そば道場の移転新築・図書館整備計画・木の香湯温泉の再建。長陽地区は、立野ダム関連の観光地づくりや立野駅周辺整備・東海大学周辺の震災遺構整備・展望所などが計画 중이다。しかし村東部、国道325号線沿いの

- ①白水地区には、新たな核となる拠点整備計画がない。村内バランスの取れた計画が必要ではないか。
- ②同ルートには、大津町から道の駅はない。物産館の建設や水道の整備等、観光地として村東部の拠点整備が必要ではないか。



整備が待たれる325号線沿い

大型投資の時期ではない

村 長

- ①白水地区は統合後の中松小、両併小と白水庁舎周辺を地域コミュニティや活性化に資する施設として活用し、地域間格差が生じないように進める。
- ②厳しい財政状況の中、物産館建設等の大型投資をやる時期ではない。瑠璃温泉等の資源を活かし、最小の投資で効果を上げるよう施策を展開していく。

325号線沿いの水道敷設は現在、中松地区から西に向かって整備中である。その完了後に考えたい。

桐原議員

跡地整備で、観光や経済の活性化は期待できない。これでは、村内バランスの取れた施策とは言えない。高森町は大きな施設も多く、白水とは雲泥の差がある。あそ望の郷は、成功した事例だろう。10年20年後、次世代につながる核となる施設と環境整備を進めるべきだ。

ふるさと納税の今後は

桐原議員

ふるさと納税制度を活用すれば、税収以上の寄付を集めることも可能だ。宮崎県都農町は、人口1万700人、本村とほぼ同じ規模で過疎地域の町だが、2018年度には、約58万件96億円の寄付があった。九州でも多くの自治体が多額の寄付を受けている。

本村の昨年度寄付額は、1億6000万円。さらなる研究とアイデアをもって取り組んでいけば、活性化につながり、財政状況にも余裕が生まれてくるのでは。

- ①人気返礼品名と寄付金額の状況は。
- ②今後どのように取り組んでいくのか、方向性は。
- ③村民の村外へのふるさと納税寄付額の状況は。

大きく伸ばせるよう努力する

村 長

- ①返礼品の1番人気は、あか牛肉。寄付状況は、前年比、件数で1.3倍3852件、金額で1.5倍7038万円（令和元年10月末時点）。

- ②宮崎県都農町等の自治体を分析すると、ボリュームを含めた返礼品の充実。効果的な広告等である。

本村でも返礼品を拡充している。本年は、WEB解析の専門家に依頼し、30-40代をターゲットにした広告や、村独自でLINEに広告展開を行う。またキャッシュレス化に対応し、電子ポイントを返礼品とした【電子感謝券】を提供している。企業版ふるさと納税も準備中。潜在能力はあるので、大きく伸ばせるよう努力する。

- ③村外への寄付金控除額は、29年が35件234万円。30年129件640万円。

桐原議員

知名度のある南阿蘇村。湧水や阿蘇の景観、あか牛などの特産品がある。調査研究し寄付金の大幅な増加を実現してほしい。



人気返礼品のあか牛